

第3回久留米市総合計画審議会（要旨）

1 開催日時

令和元年7月29日(月)15時00分～17時00分

2 会場

久留米シティプラザ 大会議室3

3 出席委員（順不同）

委員18名

荒井功委員（会長）、深山和義委員（副会長）、原口和人委員、田中功一委員、山田貴生委員、早田耕一郎委員、江頭理江委員、行徳和弘委員（穴見英三委員代理）、家永光啓委員、合原久美子委員、古賀晃委員、吉岡マサヨ委員、小松宏吉委員、矢次恵美子委員、大森洋子委員、山下永子委員、高山美佳委員、半田啓祐委員

4 欠席者

委員2名

武藤桐子委員、組坂幸喜委員

【議事次第】

- 1 開会
- 2 協議事項
 - (1) 新総合計画第4次基本計画（素案）総論について
 - (2) 新総合計画第4次基本計画（素案）各論について
- 3 報告事項
 - (1) 関係団体懇談会意見の素案への反映状況について
 - (2) 市民意見提案の素案への反映状況について
- 4 その他
- 5 閉会

【配付資料】

- ・久留米市総合計画審議会委員名簿 ……資料（1）
- ・久留米市新総合計画第4次基本計画策定全体スケジュール ……資料（2）
- ・久留米市新総合計画第4次基本計画素案のポイント ……資料（3）
- ・久留米市新総合計画第4次基本計画（素案） ……資料（4）
- ・関係団体懇談会意見の素案への反映状況について ……資料（5）
- ・市民意見提案の素案への反映状況について ……資料（6）
- ・第3回久留米市総合計画審議会座席表 ……参考資料①
- ・久留米市総合計画審議会規則 ……参考資料②
- ・久留米市総合計画審議会傍聴要領 ……参考資料③

議事録要旨

1 開会

- 中島副市長から挨拶
- 就任委員紹介
- 事務局より、過半数の委員が出席していることにより、規則に基づき会議が成立していることを報告
- 荒井会長より、深山委員の副会長就任の提案 承認
- 荒井会長より、傍聴希望者について確認 傍聴希望者なし

2 協議事項

(1) 新総合計画第4次基本計画（素案）総論について

- 事務局より、新総合計画第4次基本計画（素案）総論について説明

《質疑・応答》

○山下永子委員

市民満足度の高い、生活の場として選ばれる都市の実現に関して、久留米市の都市としてのブランドとは何を指すのか。

■事務局

ブランド力という考え方を全ての分野に当てはめた時に何が言えるかということ、基本的視点に基づいた取組の考え方に記載しており、久留米の魅力を磨きあげて、久留米の特性に応じたものを実現し、生活の場として選ばれる久留米としての魅力を付加していくことである。

○山下永子委員

ブランド論からすれば、何か定義した方が良い。例えば、生活の質の高い都市というブランドイメージを持つとか、久留米市のブランドとして目指す取組などがあるとより分かりやすいのではないか。

■事務局

もう少し明確に分かるものを記載していきたい。

○矢次恵美子委員

ブランド力を向上させ、選ばれる都市を目指すとなると、社会動態を増やさないといけませんが、市民意識調査だけの指標では妥当な評価とならないので、市民意識調査以外の要素で計れるような指標の設定を検討してもらいたい。

■事務局

シテプロモーションや移住促進では、市外でのアンケートを取ったこともあり、主な指標の中で何か記載できないか検討したい。

○大森洋子委員

活力あふれる中核都市久留米の各論の内容が、総論の都市づくりの基本的視点の中であまり記載されていないため、観光の視点や外から来る人への対応、交流人口の増加なども記載する必要があるのではないか。

■事務局

全体整理の中で検討したい。

○田中功一委員

市民満足度の高い、生活の場として選ばれる都市の実現に関して、各論では教育という記載があるが、総論では教育という記載がないため、久留米市の状況からすると記載する必要があるのではないか。

あらゆる主体が協働した持続的な地域社会の形成に関して、地域のつながりの希薄化や地域の負担感の増大が生じる中で、協働をどのように進めていくのか。

■事務局

教育に関する視点については、学力の向上等に重点的に取り組む考えを持っているので、記載するかどうか検討したい。

行政側の考え方と地域の受け方かなり乖離があることは大きな課題として認識しており、行政と地域が協議し、確固としたパートナーシップを築きながら、相互理解と連携を深めることができるよう進めていきたい。

○田中功一委員

久留米市の大きな課題として、学力向上を捉えておく必要があるため、総論での記載をお願いしたい。

地域コミュニティの重要性が増す中で、地域の取り組む気持ちが醸成される環境づくりをお願いしたい。

○合原久美子委員

魅力のある久留米とは、地域にも魅力がないといけない。魅力ある地域にしないと子ども達も出て行ってしまう。第4次基本計画は、子ども達が永住できる計画になればよい。

○古賀晃委員

市民満足度の高い、生活の場として選ばれる都市の実現の人権の項目に関して、第3次基本計画では高齢者、障害者、女性、子どもなどの記載があるが、第4次基本計画では外国人のみで括られている。様々な人々がいることから、もっと丁寧に記載し、人権三法を含めて総論で整理する必要がある。

○山田貴生委員

総論での防災や道路などのハード整備の記載と、施策体系の小分類での環境の充実の記載が第3次基本計画時よりも減っているが、力を入れていかないということか。

■事務局

防災については、特に力を入れていく分野の一つである。ハード整備の記載が必要な部分については、再度検討する。

○山田貴生委員

交通渋滞緩和のための道路整備をはじめ、防災面での河川や道路排水の整備、国や県と連携した筑後川の堰のポンプ設置など、インフラや防災などのハード整備を考えてもらいたい。

○家永光啓委員

都市の姿指標の主な指標について、毎年度進捗状況を計ることができる数値目標が望ましいが、どのように考えているか。

■事務局

年度毎に計画の進捗状況を確認していく中で、その時点での達成状況が把握できるように工夫したい。

○山下永子委員

時代の変化を見据えた施策の展開で、超スマート社会とSociety 5.0を同義にしているが、表現の次元が違うのではないか。

■事務局

超スマート社会やSociety 5.0の定義について、どのような表現が適切か検討する。

○山下永子委員

同義にすると、市民に誤解を生じさせるので、きちんと整理してもらいたい。

○荒井功会長

市民にとって分かりやすい表現にしてもらいたい。

ブランドは他人がどう見るかという外との関係が出てくるので、外との関係の指標は必要だと感じる。

(2) 新総合計画第4次基本計画（素案）各論について

■事務局より、新総合計画第4次基本計画（素案）各論について説明

《質疑・応答》

○早田耕一郎委員

全体的に、目指す成果と主な指標に齟齬が見受けられるので、留意してもらいたい。

四季と歴史が見えるまちでは、目指す成果の季節感あふれるまちだと感じる市民を増やすに対して、主な指標の情報発信した歴史スポット数は噛み合っていない。

安全で安心して暮らせるまちでは、目指す成果の安全で安心して暮らせるまちだと感じる市民を増やすに対して、主な指標は防災士・防災リーダーの数よりもハード面の指標を設定してもらいたい。

人権の尊重と男女共同参画が確立されたまちでは、主な指標を人権問題研修会の参加者数としているが、現状として地域から毎回同じ人が出席する傾向があるため、多くの人に参加してもらえる指標を設定してもらいたい。

アジアに開かれたまちについて、アジアに限定しているのはなぜか。

人と情報が行き交うにぎわいのあるまちでは、観光分野の課題に対して、都市の姿指標では何も言及されていないが、課題をどのように認識しているか。

■事務局

主な指標については、各部局が計画期間中に達成したい項目を設定しているが、改めて関係部局と意見交換し、検討したい。

防災のハード面での表現は工夫しつつ、個別具体的な計画は下位計画で整理する。

アジアに開かれたまちについては、平成13年に策定した久留米市基本構想の中で位置づけており、当時、アジアの玄関口としての九州という動きがあったことなどにより、このような表現が残っている。

都市の姿指標について、目指す成果は中分類（施策の方向性）のアウトカム指標として、市民意識調査で計っていくこととしているが、主な指標は中分類（施策の方向性）ではなく、小分類（施策）に対する指標であり、目指す成果と直接リンクしていないため、記載の方法を検討する。

○大森洋子委員

快適な都市生活を支えるまちについて、公共交通の移動に支障をきたす交通体系になっているため、公共交通体系の見直しや幹線道路以外の東西をつなぐ道路の整備など、しっかりと方針を記載してもらいたい。

快適な移動環境の形成に向けても、自転車利用のための道路整備や公共交通体系の見直しを記載してもらいたい。

高速道路が通行止めになると、緊急車両も通行できないほど国道3号線が渋滞するため、災害対応や緊急対応の観点からも幹線道路の整備についても急いで対応してもらいたい。

■事務局

ネットワーク道路の重要性は認識しており、自転車専用道路や災害・緊急対応などを含め、記載できる範囲で検討したい。

○早田耕一郎委員

KPIは本来目的を達成するためのツールであるにもかかわらず、目指す成果や主な指標を作ることが目標となっていて、目標達成のための数値として全く活かされていない。目指す成果と主な指標に齟齬が生じないように整理してもらいたい。

○山下永子委員

指標について、最も積極的・優先的に達成すべきものに絞り込み、全体の指標のトーンが一定レベルに達するよう検討してもらいたい。特に、市民1人当たりの緑化面積は、人口が減少すると1人当たりの緑化面積が増えるため、指標として適切か精査してもらいたい。

人権の尊重と男女共同参画が確立されたまちにおいて、外国人や性的少数者など、新たに解決すべき人権課題への対応とあるが、本来やらなければならないことは社会包摂であるため、対応という表記を包摂に変更してもらいたい。全く違う問題を背景に持つ外国人と性的少数者への対応または包摂は全く別物であり、並列することに違和感がある。それぞれの問題や背景を踏まえた上で、もう少し丁寧な表記の検討をお願いしたい。

○高山美佳委員

久留米市は広範囲で地域性も違うので、ブランディングが難しい都市だと感じるが、住みやすさなどをデータ上ではなく、市民が実感している不思議なまちである。

主な指標の中には、数値が出た場合に苦勞するような項目が多く、非常にもったいない。子どもの笑顔があふれるまちにおいて、主体が子どもの指標は指標項目として難しいのではないか。久留米市は不登校からの復学率が高いことや、久留米医大などがあり病気の子どもが教育を受けることができるなど、小さい統計の中に数多くの良いところがあるので、待機児童数など福岡市に負けないような良い数値が出そうな指標を盛り込んで、久留米の良さをブランディングしてアピールできるのではないか。

○江頭理江委員

基本構想策定時と現在では状況が変化していることから、アジアに開かれた、アジアからつながるといような取組内容に考え直してみてもどうか。外国人の受入方法が変更されるにあたって、東南アジアから家族で来られる方も増えていくかもしれないので、教育面で子どもたちの受入れというフォーカスの仕方もある。

外国人の受入れは、人口30万人の維持という目標につながっており、主な指標として、市内在住外国人数という全体的な数値ではなく、どの地域から来られた方が多いか、その方々に家族を含めて来てもらうためにどうしたらよいかに加え、空港へのアクセスがよく、アジアを通して世界とつながりやすい可能性のあるまちだという表現や指標にすると、アジアに開かれたまちという表現が今の時代に合った形になるのではないか。

地域コミュニティについて、自治会に加入しない世帯が増加している中で、学校も地域も活動が難しくなる。総論の中で、大変ではない部分の地域コミュニティや学校コミュニティを各論とのつながりの中で整理してもらえると、久留米市は文教地区で自治会にも入りやすいというイメージにつながるのではないかと。

○吉岡マサヨ委員

人権の尊重と男女共同参画が確立されたまちの人権問題研修会の参加者数の指標は、同じ人が出席する状況にあるので、はじめて参加された人を調査するなど工夫が必要である。

四季と歴史が見えるまちの市民1人当たりの緑化面積や、外で活動したくなるまちの都市公園の供用面積など、あまり意味が変わらないものを指標にするのはどうか。

子どもの笑顔があふれるまちの指標で、当事者として子どもが意見を述べる機会があることは非常によいことであるが、合計特殊出生率や全国学力テストの結果については、様々な人がいる中で指標としては違和感がある。待機児童数や、不登校、高校・大学卒業後の未就労の子ども状況などを可能なら追加してもらいたい。

外国人の増加に配慮ができるような項目や文言を各論に記載してもらいたい。

○古賀晃委員

人権の尊重と男女共同参画が確立されたまちに関して、第3次基本計画では課題として、学校教諭による部落差別事件が具体的に明記されているが、人権三法が成立している中、第4次基本計画でも明記すべきではないか。また、マイノリティや外国人の課題や対応についても、具体的に記載すべきではないか。

子どもの笑顔があふれるまちに関して、中心部の子ども会の加入率が1、2割と低いことが課題になっている。行政と学校と子ども会など地域が連携して子どもを育てるということが必要ではないか。

○荒井功会長

委員より様々な意見が出たので、市のほうでこれらの意見を踏まえて、計画素案を練ってもらいたい。

3 報告事項

(1) 関係団体懇談会意見の素案への反映状況について

(2) 市民意見提案の素案への反映状況について

■事務局より、関係団体懇談会意見及び市民意見提案の素案への反映状況について説明

《質疑・応答》

○山下永子委員

関係団体懇談会と市民意見提案において、アジアに開かれたまちに対する意見が全くないことについては、意見を求める団体の選択に誤りがあったのではないかと。意見がないことに対して、なにか理由があるか。

■事務局

意見を各分野に振り分けて整理した結果、意見がなかったものであり、意識が薄かった部分もある。理由については細かな原因分析ができてはいないが、アジアに開かれたまちについては、担当部局との調整や審議会での意見などを踏まえて、検討していきたい。

○山下永子委員

今後、国際環境、特に海外の人材に関わる分野は大きく変化しており、今後の久留米の発展に関係してくる分野なので、現状と課題をしっかりと記載してもらった上で、意見の再整理をお願いしたい。

4 その他

■事務局より

- ①本日の会議議事録は、事務局で作成し、委員に確認した上で公開したい。
- ②次回の審議会は10月頃を目途に開催予定。後日事務局より連絡させていただく。

5 閉会

審議会後、追加意見

○吉岡マサヨ委員

人権の尊重と男女共同参画が確立されたまちに関して、女性の活躍を地域社会の活性化につなげるためという表現があるが、地域活性化のために女性が活躍するものではないと感じる。地域での取組には、平等な立場で意見が言える環境づくりや、家庭での意識づくりが必要で、男女平等の意識づくりや固定的性別役割分担意識の解消を図るための教育や啓発を進め、あらゆる分野へ女性が参画した結果、地域活性化につながるのではないかと考える。また、女性の活躍は対等・平等な環境が整えば、地域だけでなく、様々な分野で進んでいくと考える。